

出資団体の経営状況一覧(令和6年度決算)

(単位:千円、%)
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
1	(公財)札幌国際プラザ	経常収益	396,475	419,155	22,680 (5.7)	【経常収益】 札幌留学生交流センターの利用料をはじめとする自主事業収入の増加、コンベンション関連の助成金の申請の増加による受取補助金の増加、市立高校生のポートランド派遣の再開に伴う参加者負担金及びこれを軽減させるための寄附金の募集を開始したことによる収益の増加。 【経常費用】 コロナ禍より休止していた市立高校生ポートランド派遣事業が再開されたことに伴う旅費交通費の発生、ならびに各事業における消耗品費および協力者への謝金の増加等、事業全般の活性化による費用の増加。 【固定資産】 会計・勤怠管理等の財団運営に関わるシステムの導入、ウェブサイト改修や動画作成、またイントラパソコンの新規リース契約を開始したことによる増加。
		当期経常増減額	4,211	10,107	5,896 (140.0)	
		当期正味財産増減額	4,165	11,172	7,007 (168.2)	
2	(一財)札幌市職員福利厚生会	経常収益	535,236	543,119	7,883 (1.5)	【経常収益】 経常収益では、会費額算定の根拠となる会員の給与改定や定年延長に伴い会費収入が増加したこと、永年会員旅行補助に係る精算(R元年度～R3年度)に伴う収入増があったことが増収の主な要因となっている。 【経常費用】 経常費用では、援護事業等において各事業への申請件数や給付額が例年より少なかったこと、及び税務会計業務等に関する委託費の見直しにより支出が想定より抑えられたことが費用減少の主な要因となっている。
		当期経常増減額	12,413	39,002	26,589 (214.2)	
		当期正味財産増減額	7,648	36,169	28,521 (372.9)	
3	札幌総合情報センター(株)	売上高	3,044,531	5,608,059	2,563,528 (84.2)	【売上高】 当期の売上高は、札幌市基幹系情報システム(標準準拠版)の開発に加え、現在運用中の基幹系情報システムの制度改正等への対応などの新規業務の受託の増加などが主因で増加した。 【営業費用】 受託業務の増加に伴う委託費の増加に加えて、業務増に対応するための体制強化に伴う人件費の増加などが主因で増加した。
		営業利益	93,853	204,109	110,256 (117.5)	
		当期純利益	58,032	142,019	83,987 (144.7)	

出資団体の経営状況一覧(令和6年度決算)

(単位:千円、%)
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
4	札幌丘珠空港ビル(株)	売上高	255,814	327,815	72,001 (28.1)	【売上高】 営業収益については、乗降客数の増加に伴う直営売店の売上増に加え、入居者の家賃等の見直しなどにより、売上高は対前年度比28.1%の327,816千円となり、売上原価を差し引いた売上総利益は対前年度比22.5%増の213,566円となった。
		営業利益	9,767	10,812	1,045 (10.7)	【営業費用・営業利益】 営業費用は可能な限り経費節減に努めたが、社員及び売店店員の増員による人件費やキャッシュレス化に伴う手数料、エネルギー価格高騰に伴う水道光熱費の増加、ターミナル施設の基本計画検討業務に係る委託業務等の支出により、対前年度比23.2%増の202,753千円となり、営業利益は対前年度比10.7%増の10,813千円となった。
		当期純利益	6,404	17,664	11,260 (175.8)	【営業外収益・当期純利益】 営業外収益として、口蹄疫まん延予防に係る靴底消毒対応に伴う委託料の受入及びテナントより受託した工事費の受入等があり、経常利益は13,312千円となり、特別利益(基本計画検討業務の補助金受入)及び特別損失(固定資産除却損)を差し引いた結果、税引前当期純利益は27,555千円、当期純利益は17,664千円となった。
5	(公財)パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会	経常収益	443,858	533,775	89,917 (20.3)	【経常収益】 事業規模の回復に伴い事業収益が増加したほか、国から市への補助金が前年度よりも増加したこと、企業版ふるさと納税を活用したご寄付をいただいたことなどに伴い、受取地方公共団体負担金が増額となったことによるもの。
		当期経常増減額	▲ 1,748	55,734	57,482 (3,288.4)	【経常費用】 事業規模の拡大や為替変動、物価高騰等の影響を受け、アカデミー・アーティスト関連費(旅費、宿泊費等)が増額となったもの。
		当期正味財産増減額	▲ 1,769	55,714	57,483 (3,249.5)	
6	(公財)札幌市芸術文化財団	経常収益	3,745,794	4,024,040	278,246 (7.4)	【経常収益】 経常収益(a)は前年比2億7,800万円余の増加となった。教育文化会館の営業再開や賃金スライド制度による人件費補填等で受取指定管理費が1億500万円余の増加となった。また、利用料金収益や入場料収益なども増加となった。
		当期経常増減額	43,897	▲ 145,688	▲ 189,585 (▲431.9)	【経常費用】 経常費用(b)は前年度比4億6,700万円余の増加となった。教育文化会館の営業再開により前年度比2億7,400万円余の費用増加のほか、人材確保の観点から職員の給与水準を引き上げたことによる人件費増加が主な要因となった。
		当期正味財産増減額	35,993	▲ 154,842	▲ 190,835 (▲530.2)	【正味財産】 上記の結果、1億5,400万円余の赤字となったが、特定費用準備資金をはじめ、令和2年度から令和5年度にかけて生じた剰余金を財源にした予算に基づく費用執行のため、直ちに経営への影響が生じるものではない。

出資団体の経営状況一覧（令和6年度決算）

（単位：千円、％）
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
7	(一財)札幌市スポーツ協会	経常収益	4,406,900	4,512,828	105,928 (2.4)	【経常収益・経常費用・当期正味財産増減額】 令和6年度の経常収益については、コロナ禍を経て施設利用や各種事業が通常に戻りつつある中、令和7年度4月からの利用料改定に伴う、回数券の駆け込み需要による利用料収益の増加、および各教室の定員充足率の増加等により、受講料収益が前年に比べ増加し、経常収益全体でも前年比105,928千円の増加となった。また経常費用は、施設保守点検等の契約経費の増加や、前年度休館施設の営業再開に係る経費の計上があり前年比98,808千円の増加となり、当期正味財産増減額は6,436千円のマイナス(前年から8,663千円の縮小)となった。 【資産・流動負債】 資産は、流動資産は光熱費および休館に係る補填やSGSC補助金に係る未収金の増加があり前年比20,429千円の増加。流動負債は、退職金の増加や社会保険料の計上月の違いにより未払金や未払消費税等が増加したため前年比31,398千円の増加となった。 【正味財産】 正味財産は、資産の増加よりも負債の増加の方が大きかったため18,927千円の減少となった。
		当期経常増減額	▲ 14,579	▲ 7,459	7,120 (48.8)	
		当期正味財産増減額	▲ 15,099	▲ 6,436	8,663 (57.4)	
8	(株)札幌ドーム	売上高	1,271,771	1,787,505	515,734 (40.6)	【売上高】 イベント利用日数は、前期を大きく上回る129日(前期比31日増)となり、それに伴いイベント来場者数は111万2千人(前期比11.6%増)となった。売上高は17億87百万円(前期比5億15百万円増)となり、北海道日本ハムファイターズが北広島に移転してから2年目にして、単年度黒字を達成した。 【営業利益・当期純利益】 各種新規イベントの誘致により利用日数が大幅増となったこと、またネーミングライツ契約を締結したことにより、貸館事業及び駐車場・広告事業を含むその他営業収益は大幅な増収となった。一方で、観光事業は、イベントの利用日数の増加により営業日数が減少したことによる減収となった。 【純資産・借入金残高】 借入れもなく、健全な財務状況を維持している。
		営業利益	▲ 672,517	▲ 56,145	616,372 (91.7)	
		当期純利益	▲ 651,153	42,984	694,137 (106.6)	
9	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会	経常収益	7,715,012	8,031,201	316,189 (4.1)	【経常収益】 各指定管理施設において、賃金スライド制度による契約額の加算や光熱費高騰に伴う補填等が行われた。併せて、ミニ児童会館の契約額の増加が主な要因として316,189千円増加した。 【人件費】 職員給与のベースアップ及び有期雇用職員の採用数が令和5年度と比較し、増加したことから人件費が260,794千円増加した。 【固定資産】 職員を安定的に確保し、事業を安定的に維持、継続させるための人件費の積立として特定費用準備資金「公益目的事業準備資金」を新たに取得したとともに、同じ特定費用準備資金「児童会館等事業積立資金」を計画より前倒して積立てたため、202,521千円増加した。
		当期経常増減額	▲ 7,928	▲ 33,410	▲ 25,482 (▲321.4)	
		当期正味財産増減額	▲ 23,250	▲ 37,328	▲ 14,078 (▲60.6)	

出資団体の経営状況一覧（令和6年度決算）

（単位：千円、％）
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
10	(公財)札幌市中小企業共済センター	経常収益	6,045,300	6,107,018	61,718 (1.0)	【経常収益】 期末会員数が前年度より994名純増したことにより、受入退職掛金は50,741千円の増収、受取福利会費は7,109千円の増収となった。また、退職積立金の運用委託生命保険会社各社の決算の結果、特定資産の運用益は、前年より3,792千円増収となった。これらにより、経常収益は前年比61,718千円増となった。 【経常費用】 経常費用は退職金等共済給付費用が52,149千円増加、支給件数増加に伴い支払慶弔金が12,840千円増加。また、令和6年度決算から賞与引当金を計上したことにより賞与引当金繰入額が9,682千円増加した。これらにより、経常費用は前年比76,676千円増となった。
		当期経常増減額	6,799	▲ 8,159	▲ 14,958 (▲220.0)	
		当期正味財産増減額	6,799	▲ 8,179	▲ 14,978 (▲220.3)	
11	(一財)さっぽろ産業振興財団	経常収益	1,060,484	935,198	▲ 125,286 (▲11.8)	【人件費・当期経常増減額・当期正味財産増減額・正味財産】 財団プロパー職員への退職金支払のため毎年引き当てている退職給付引当金の計上漏れ(※)が判明し、過去に遡って引当処理を実施(約12,000千円程度を計上)したために人件費が増加し、当期経常増減額が大きなマイナスとなったもの。 ※令和3年度に退職金の計算基礎となる勤続期間を拡大する制度改正を実施していたものの、引当金の計上を行っていなかったことが令和6年度中に判明した。
		当期経常増減額	13,540	▲ 16,989	▲ 30,529 (▲225.5)	
		当期正味財産増減額	▲ 83,547	▲ 17,499	66,048 (79.1)	
12	(株)札幌都市開発公社	売上高	2,034,863	2,047,884	13,021 (0.6)	【売上高】 前事業年度対比100.6%と堅調に推移した。 【営業費用】 工事に関する費用や業務委託費用が増加となった。
		営業利益	259,708	201,201	▲ 58,507 (▲22.5)	
		当期純利益	200,067	168,083	▲ 31,984 (▲16.0)	

出資団体の経営状況一覧(令和6年度決算)

(単位:千円、%)
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
13	(株)札幌花き地方卸売市場	売上高	125,799	128,112	2,313 (1.8)	【販売費・一般管理費】 令和6年度は、委託業務の執行抑制や優先順位を踏まえた修繕費の執行などにより経費の節減に努めたが、前年度には無かった消耗備品購入などの理由により増となった。
		営業利益	13,277	13,425	148 (1.1)	【営業利益】 令和6年度は、取扱金額が減少したが駐車場使用料の値上げにより前年度の水準を維持することができた。
		当期純利益	12,277	10,640	▲ 1,637 (▲13.3)	【流動資産・流動負債】 令和7年度3月分精算代金の一部が年度内支払いとなったことにより、精算用普通預金が増減し、対応する精算代金預り金も減少したことにより減となった。
14	(一財)札幌産業流通振興協会	経常収益	227,043	231,463	4,420 (1.9)	【経常収益】 催事件数は令和5年度の115件から新規催事が17件増加し、年間で132件となり、「展示場事業収益」は令和5年度と比較して増加した。主催者が会場使用に伴い負担する光熱水費である「展示場使用負担金」は電気料金等の価格高騰により増加した。飲食提供及び自動販売機等の手数料である「施設賃貸共益費負担金」は新規催事の増加に伴い上昇した。屋外敷地や会議室等を貸し出す「施設賃貸事業収益」は、悪天候により屋外イベントを屋内に変更したこと等から、屋外使用率の減少に伴い低下した。
		当期経常増減額	▲ 45,587	▲ 61,773	▲ 16,186 (▲35.5)	【経常費用】 令和6年度は、正職員採用による給料手当の増加、新規催事及び各事業の規模拡大による主催事業の主催者負担金の増加、電気料金の上昇による光熱水費の増加、委託費の増加により、経常費用は増加となった。一方で、嘱託職員の正職員採用への変更により賃金は減少、設備等の修理の減少により修繕費は減少となった。
		当期正味財産増減額	▲ 45,587	▲ 61,773	▲ 16,186 (▲35.5)	【当期正味財産増減額】 令和6年度は、令和5年度と比較して経常収益が442万円増になったものの経常費用は2,060万円増となったことから、当期経常増減額は1,618万円減となった。
15	(一財)札幌勤労者職業福祉センター	経常収益	699,612	714,157	14,545 (2.1)	【経常収益】 新型コロナウイルス感染症収束に伴う宿泊や宴会の需要増、宿泊やレストランの料金の単価の引上げ等により、経常収益は前年比14,545千円の収入増となった。
		当期経常増減額	38,571	27,078	▲ 11,493 (▲29.8)	【当期正味財産増減額】 当期正味財産増減額について、前年比8,302千円の減であったものの、新型コロナウイルス感染症収束に伴う需要増や、経費節減等に取り組んだ結果、19,718千円の黒字を確保した。
		当期正味財産増減額	28,020	19,718	▲ 8,302 (▲29.6)	【借入金残高】 施設の老朽化により修繕費などが膨らんだものの、新型コロナウイルス感染症収束に伴う需要増や、黒字の当期正味財産増減額を確保できる見通しがあったことから、借入金の一部である12,900千円の繰上償還を行い、着実に残高を減少させることができた。

出資団体の経営状況一覧(令和6年度決算)

(単位:千円、%)
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
16	(株)札幌振興公社	売上高	3,166,904	3,361,676	194,772 (6.2)	【売上高】 円安の影響によるインバウンドの増加により、観光事業・飲食事業を中心に売上が前年より増加
		営業利益	107,430	104,266	▲ 3,164 (▲2.9)	【資産】 すすきの市街地ビルの住宅部分を所有していたUR都市再生機構の撤退により、将来の建物解体費相当額として2億8,000万円を受領したことによる増加
		当期純利益	62,485	47,133	▲ 15,352 (▲24.6)	【負債】 北8西1再開発事業及び大谷地アドバンシービル改修工事に係る資金調達(借入)による増加
17	(株)札幌リゾート開発公社	売上高	1,519,736	1,809,458	289,722 (19.1)	【売上高】 ①札幌国際スキー場は索道の料金改定や秋祭り事業が好調であったこと、②豊平峡電気バスの利用料金改定を実施したこと、③藤野は2月以降の降雪状況で予定通りに営業が出来たこと、以上が主要因で大幅な増収となった。
		営業利益	199,756	290,806	91,050 (45.6)	【固定資産・借入金残高】 新たな収益獲得を目的に、旧6人乗りゴンドラ山麓駅舎をリノベーションし戦略施設となる「Lounge THE 6」を開設した。これが主要因で固定資産・固定負債が増加した。
		当期純利益	199,997	328,362	128,365 (64.2)	【当期純利益】 前期比で当期純利益が大きく増加している要因は特別利益(補助金)によるものではあるが、経常段階の利益を見ても前期比で約37%アップしていることから、特殊要因を考慮しても堅実な収支状況で決算を終えることが出来た。
18	(一財)札幌市環境事業公社	経常収益	7,596,615	7,745,648	149,033 (2.0)	【経常収益・経常費用・当期経常増減額・当期正味財産増減額】 経常収益(a)については、事業系ごみ収集運搬事業におけるごみ収集量増等の要因により、前年比149百万円余増加した。 一方、経常費用(b)については、びん・缶・ペットボトル選別事業における労務単価の増や、事業系ごみ収集運搬事業におけるごみ収集量増に起因する処分料の増加等により、前年比41百万円余増加した。
		当期経常増減額	212,367	319,750	107,383 (50.6)	以上の結果、当期経常増減額(e)は、前年比107百万円余増の319百万円余、これに当期経常外増減額及び法人税等を差引した当期正味財産増減額(f)は、216百万円余となった。
		当期正味財産増減額	147,176	216,258	69,082 (46.9)	【資産・流動資産・固定資産】 固定資産(i)が減価償却等により前年比84百万円余減少したものの、当期経常増減額(e)が319百万円余と良好な決算だったこと等により流動資産(h)が前年比386百万円余増加し、資産(g)は前年比301百万円余増加した。 【フサイ・流動負債・固定負債】 流動負債(l)は未払法人税等の増加等により前年比74百万円余増加し、固定負債(m)は退職給付引当金の増加等に起因して前年比11百万円余増加した。これにより、負債(k)は85百万円余の増加となった。

出資団体の経営状況一覧(令和6年度決算)

(単位:千円、%)
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
19	(株)札幌エネルギー供給公社	売上高	801,470	772,717	▲ 28,753 (▲3.6)	【人件費】 R6年度内に熱供給外事業(ビル管理事業)を終了したことや定年退職者の補充をしなかったことにより、人件費は▲22百万円減少した。
		営業利益	▲ 33,806	▲ 1,617	32,189 (95.2)	【当期純利益】 R5年度は特別利益としてJRTTより西2丁目導管移設工事費用に関する補償金217百万円を受けたことから当期純利益は116百万円となったが、R6年度は移設工事の最終年度で補償金は6百万円となったことから当期純利益はR5年度より128百万円減少した。
		当期純利益	116,164	▲ 12,141	▲ 128,305 (▲110.5)	【流動負債】 R5年度は利益も大きく未払法人税等が52百万円あったが、5年度よりも利益が減少した6年度は大幅に減少し、流動負債全体でも64百万円の減少となった
20	(株)北海道熱供給公社	売上高	5,926,658	5,767,266	▲ 159,392 (▲2.7)	【売上高】 電気・ガス価格激変緩和対策事業について昨年度と比べ、適用期間(2023年度は通年、2024年度は7ヶ月)および支援額(2023年度はガスで15円～30円、高圧電力で1.8円～3.5円、2024年度はガスで5円～17.5円、高圧電力で0.7円～2.0円)の相違による費用削減分のお客様への還元等が縮小したものの気温影響による販売量の減少に加えLNG価格の変動による都心地域燃料調整単価への影響により減収となった。
		営業利益	▲ 18,595	67,580	86,175 (463.4)	【営業費用】 ガス平均原料価格の上昇や電気・ガス価格激変緩和対策事業の影響により燃料費が増加したが、昨年度は中央エネルギーセンター建物に係るアスベスト除去に備えた資産除去債務を減価償却費に計上していたため減少となった。
		当期純利益	▲ 4,730	101,981	106,711 (2,256.0)	【資産・負債】 資産:主に都心アクセス道路建設に伴う高温水導管移設工事等による増加 負債:CMS(キャッシュ・マネジメント・システム)の設備資金借入による増加
21	(公財)札幌市公園緑化協会	経常収益	1,837,756	1,886,902	49,146 (2.7)	【経常収益】 モエレ沼公園野球場の指定管理開始による指定管理収益増加、及び売店収入・委託販売手数料が増加したため。
		当期経常増減額	▲ 16,651	▲ 1,308	15,343 (92.1)	【経常費用・人件費】 最低賃金の上昇や物価の高騰の影響による職員人件費増加、及び事業費の負担が増加したため。
		当期正味財産増減額	▲ 23,787	▲ 6,355	17,432 (73.3)	【負債】 固定負債である退職給付引当金が増加したため。

出資団体の経営状況一覧(令和6年度決算)

(単位:千円、%)
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
22	札幌市森林組合	経常収益	60,844	74,305	13,461 (22.1)	【経常収益】 経常収益は、林産事業の件数が増えたことにより、前年比13,461千円増加した。
		当期経常増減額	▲ 6,159	▲ 22,543	▲ 16,384 (▲266.0)	【資産】 預金等の流動資産が減少し、山林取得や車両更新等により有形固定資産が増加したことで、資産が減少した。
		当期正味財産増減額	▲ 6,287	▲ 22,691	▲ 16,404 (▲260.9)	【当期正味財産増減額】 当期正味財産増減額は、16,404千円の減額となった。
23	(一財)札幌市下水道公社	経常収益	1,570,529	1,671,273	100,744 (6.4)	【経常収益】 経常収益は、下水汚泥処理事業の修繕費及び動力費の増により58,013千円の増、水処理事業の修繕費及び請負費の増により41,855千円の増等により、前年比100,744千円の増加となった。
		当期経常増減額	16,032	37,465	21,433 (133.7)	【経常費用】 経常費用は、管理費の人件費が会計間の人事異動等により15,092千円減額となったが、下水汚泥処理事業及び水処理事業の修繕費等が増加したことにより、前年比79,311千円の増加となった。
		当期正味財産増減額	3,499	20,107	16,608 (474.6)	【資産・負債】 資産は、流動資産の現金預金の増により265,730千円の増額となった。また負債についても、未払金の増等により、245,623千円の増となった。
24	(株)札幌副都心開発公社	売上高	4,215,650	4,273,526	57,876 (1.4)	【経常収益・売上高・営業費用・営業利益・営業外収益・当期純利益】 7月のカテブリ運営移行に伴う賃料・共益費の減少及び委託費の増加と、施設劣化対策工事の増加による悪化要因の一方で、ホテルの宿泊部門は開業以来の売上を計上、水族館・土地賃貸事業も増収となったが、営業収支では前年を大きく下回る。但し、大型店の契約解約金を特別利益計上したため当期純利益では前年を上回る結果となった。
		営業利益	237,944	3,672	▲ 234,272 (▲98.5)	【資産・負債・純資産・借入金残高】 資産では次年度支払に備えた現預金の増加と劣化対策工事を増加したことから有形固定資産が増加。負債では大型店の契約解約による返還敷金を固定負債から流動負債に振替え、また借入増加により固定負債が増加となった。純資産においては当期純利益から昨年総会決議による50周年記念配当を差引いた増加となっている。
		当期純利益	223,954	401,901	177,947 (79.5)	

出資団体の経営状況一覧(令和6年度決算)

(単位:千円、%)
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
25	(一財)札幌市住宅管理公社	経常収益	5,750,982	7,410,010	1,659,028 (28.8)	【経常収益・経常費用】 市営住宅管理事業・施設保全事業の委託額増加により、経常収益及び費用が増加した。
		当期経常増減額	32,005	39,009	7,004 (21.9)	【当期経常増減額・当期正味財産増減額】 税引き前利益は、昨年度よりも7百万円増加したが、10年間の欠損繰越期間が終了したことにより、今年度の決算から法人税が通常通り掛るため、税引き後利益での昨年度との比較では微増となった。
		当期正味財産増減額	30,538	31,429	891 (2.9)	【流動資産・流動負債】 特に、施設保全事業の委託先への工事等の代金の支払について、3月末までの支払が昨年度よりも円滑であったため、期末時点での流動資産(預金)が減少するとともに流動負債(未払金)も減少した。
26	(一財)札幌市交通事業振興公社	経常収益	5,984,819	6,179,865	195,046 (3.3)	【経常収益】 軌道運送事業における乗車料収入で118,681千円、受託事業収益で18,900千円など、軌道運送事業全体で約1億3,150万円増収したため。 (R5年度軌道事業収益:2,081,604千円、R6年度軌道事業収益:2,213,097千円) 【経常費用】 札幌市に支払う施設使用料が増加したため。 (R5年度施設使用料:808,334千円、R6年度施設使用料:851,165千円)
		当期経常増減額	32,467	64,099	31,632 (97.4)	
		当期正味財産増減額	20,796	38,981	18,185 (87.4)	
27	(一財)さっぽろ水道サービス協会	経常収益	1,817,504	1,794,765	▲ 22,739 (▲1.3)	【経常収益】 令和6年度は労務単価の上昇により各事業の委託料は増加傾向にあるが、令和5年度まで委託していた督励収納業務(令和5年度委託料:78百万円)は、業務の見直しにより、令和5年度末をもって終了したため経常収益は令和5年度に比べて22百万円減少した。
		当期経常増減額	135,662	66,203	▲ 69,459 (▲51.2)	【人件費】 経常費用のうち人件費については、人材の確保・育成を強化するため、新卒者採用に加え、経験者採用も実施し、新たな業務受託に向けた人材の確保に努めたこと等により、令和5年度に比べて27百万円増加した。
		当期正味財産増減額	87,740	40,172	▲ 47,568 (▲54.2)	【流動負債】 当期経常増減額は令和5年度と比べて減少したため、それに伴い未払消費税、未払法人税等が減少したことから、流動負債全体は191百万円となり、令和5年度に比べて31百万円減小した。

出資団体の経営状況一覧（令和6年度決算）

（単位：千円、％）
※令和7年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	5年度決算	6 年 度 決 算		6年度決算概要
					対前年度増減(率)	
28	(公財)札幌市防災協会	経常収益	169,915	171,001	1,086 (0.6)	【経常費用・人件費・当期経常増減額】 応急手当普及啓発業務の廃止に伴い、人件費が減となり、経常費用が減となったことから当期経常増減額が増となった。 【資産・流動資産】 業務委託料収入(自衛消防業務訓練実地指導業務)の増に伴い、流動資産が増となり、資産が増となった。 【正味財産】 人件費の減及び委託費の増に伴い、正味財産は5,000千円余りの増となった。
		当期経常増減額	▲ 6,990	6,728	13,718 (196.3)	
		当期正味財産増減額	▲ 8,328	5,002	13,330 (160.1)	
29	(公財)札幌市生涯学習振興財団	経常収益	828,967	1,061,725	232,758 (28.1)	【当期正味財産増減額・正味財産】 青少年科学館が令和6年4月1日に再開館したことで経常収益・経常費用いずれも増加しているが、リニューアル効果により過去最高の来館者数となったこと等により経常収益が前年度比232,758千円増加、収支(当期正味財産増減額)はプラスとなり正味財産が19,100千円増加した。】
		当期経常増減額	▲ 53,066	21,266	74,332 (140.1)	
		当期正味財産増減額	▲ 53,145	19,100	72,245 (135.9)	
30	(公財)札幌市学校給食会	経常収益	8,664,915	9,177,058	512,143 (5.9)	【経常収益・経常費用】 経常収益・経常費用の増加は、物価高騰により学校給食用物資の購入費用が増加し、これに伴い物資調達に係る札幌市からの受託収益も増加したことが主な要因である。 【資産・負債】 資産・負債の減少は、札幌市から受領する物資調達受託収益について、当年度の概算受領額と実績額の差異(精算返納額)が前年度よりも268百万円少なかったため、この分、年度末時点における返納未済額(流動負債)と、返納資金として留保される現金預金(流動資産)が縮減したことによる。
		当期経常増減額	1,409	1,616	207 (14.7)	
		当期正味財産増減額	1,409	1,616	207 (14.7)	